

青少年むらやま

第43号
2024年
令和6年10月7日

提言



山辺町青少年育成町民会議 会長 松田博之

多くの大人の目と手で 子どもたちを育てよう

山辺町でも少子化が進み、児童・生徒数の減少が見られます。高校生も多くは町外の学校に通学し、町の中では駅近辺で見かける程度になっています。このような中、青少年育成町民会議では、町の将来を担う青少年が心身ともに健やかで、人間性豊かに成長し社会の一員として自主的・自律的に行動できるようになることを願って活動を続けています。

子どもたちの現在の様子に向け、理解を図ることをねらった巡回活動。学校訪問での朝のあいさつ運動。やまのべまるとフェスティバル会場でボランティアサークル「ミルク」の協力を得ての声掛け運動。子どもの成長の基本の場である家庭教育の充実に向けて、町内の認定こども園の協力を得て保護者を対象とした講演会の実施。さらに、本会の構成団体である更生保護女性会による、夏休みの「ミニ集会」。この活動では、地区ごとに公民館等を会場にレクリエーションや料理作りを行い、休業中の子どもの健全育成につなげています。

本会議は、青少年の育成にかかわる町の多くの機関・団体で構成しています。多方面から目を向けられるその良さを生かして、総会時の講演会や青少年指導機関関係者との懇談会等において意見交換の場を設けています。また、青少年日より「りんどう」を発行し、多くの方々へ活動の理解が図られるようにしています。

子どもたちは、日々成長しています。子どもたちの成長のためには、大人の子どもの目を見る目が一つの方向からだけでは、本当の意味での子どもへの理解にはなりません。この青少年育成町民会議のように、多くの立場から多面的に子どもたちを捉えていくことが必要であると考えています。子どもたちの表情・言葉・行動からだけでなく、その中にあ



相模小学校でのあいさつ運動



ボランティアサークル「ミルク」の協力を得ながらの街頭啓発運動

る子どもなりの理由を理解するには別の角度から見ること、その裏にある思いを考へることが大切ではないでしょうか。子どもたちは、大人が見ていること、認めてあげることによって安心感が生まれ自信となり、行動に幅がで、さらに大きく成長するのではないのでしょうか。

「大人が変われば子どもも変わる」。子どもたちは、一人ひとりがそれぞれの個性をもって輝いています。その子どもたちがさらに成長するためには、子どもたちがどのように変わるのが良いのか。子どもたちがどのように変わるには大人がどう変わればよいのか。一人の大人として考え続けていかなければならないことだと思います。

天童市
青少年健全育成
市民集会を開催

令和6年7月6日(土)に天童市青少年健全育成市民集会が、各種団体や多くの市民の方々の参加の元、天童市立天童中部公民館で開催され、青少年の健全育成活動に対して理解を広めた。

集会では、これまで青少年健全育成に御尽力いただいた4名に賞状を授与し、天童市立第一中学校生徒会が「仲間を思い行動し、共に挑戦し続けるために」と学校で行っている取り組みを発表した。

集会宣言では、天童市連合婦人会副会長が、青少年の健全育成活動の輪をさらに広げていくことを宣言した。

講演会では、株式会社モンテディオ山形 代表取締役社長 相田健太郎氏から、昨年モンテディオ山形が主体となり、天童市内の小中学生を試合に招待した「エデュケーショナルリーダーの取り組みについて」の講演をいただき閉会となった。



中山町
ふれあいと絆を
一層深めるために

新年度の始まりの時期に、子どもたちを見守り元気に送り出すことを目的とした「あいさつ運動」が実施されました。4月25日から27日までの3日間、町内の小中学校でそれぞれ一日ずつ昇降口前において登校時にあいさつを交わしました。

小学生は通学班長の引率の下、一列になって登校してきました。中学生はひとりで登校したり、友達と一緒に登校したりと様々ですが、皆元気にあいさつをしてくれました。

人と人とのコミュニケーションを深め、互いに理解し、尊重し合うためにあいさつは欠かせません。

町民会議では地域ふれあい推進事業としてあいさつ運動とクリーン作戦を実施し、構成団体の活動にも多く取り入れていただいています。中山町更生保護女性会では毎月1日と15日に小中学生にあいさつ運動を実施しているほか、老人クラブなどの団体や個人でも取り組まれており、おかげで子どもたちは地域の中でたくさんの人とあいさつを交わす機会が増えていきます。これからも子どもも大人も積極的にあいさつを交わし、ふれあいと絆が一層深まる中山町であってほしいと思います。



大江町
ボランティアサークル
夢憧布(ポケット)の活動

ボランティアサークル夢憧布(ポケット)は現在、大江町立大江中学校の3年生12人、2年生2人、1年生10名の24名と、町内在住の高校生5名、計29名で活動しています。

山形県内で最も古い歴史を持つ大江町の花火大会は、毎年8月15日に開催されますが、今年も翌日の16日に「清掃活動」を行いました。4班に分かれて町民ふれあい会館を出発し、花火殻や空き缶等、町内の隅々まで丁寧に確認しながら歩き、2時間ほどごみを回収しました。

夢憧布の活動は「会員の自主性」を軸にして、保育活動など、自ら企画し実行しています。7月31日の顔合わせ会の際にバルーンアートを体験し、併せて会員同士の親睦を深めながら様々な意見を出し、今年度の活動について話し合いました。

ボランティア活動は、学校活動以外の活動や人との出会いがあり視野が広がるとともに、思いやりの心や規範意識を育てるきっかけにもなると考えられます。今後ともボランティアサークル夢憧布の活動が継続できるように支援していきたいと思えます。



尾花沢市
故郷に誇りを持って
前向きに生きる力を

子どもたちが心身ともに健やかで人間性豊かに成長するためには、自分の故郷のすばらしさ(ひと・もの・こと)に触れられる社会の環境が必要です。本市の青少年育成市民会議では、このような社会環境をつくるために、関係機関・団体、家庭・学校・地域が連携して各事業に取り組んでいます。

令和5年度は、「ひと」による社会の環境づくりとして、青少年健全育成市民集会の講師に、尾花沢市出身で北京五輪バイアスロン競技日本代表の尾崎光輔氏をお招きしました。「継続は力なり/自分のペースで」と題してこれまでのスキー人生を振り返り、自分の可能性を信じて継続することの大切さや、地元尾花沢市民はもろろ応援してくださった全ての人たちへの感謝など、競技を通して得たことについて講演いただきました。苦しい時も前向きに挑戦し続け、オリンピック出場を果たすことができた原動力はここにあったのです。

尾崎氏の講演は、将来への夢と希望、そして故郷尾花沢に誇りを持って前向きに生きる力を、子どもたちに与えてくれました。本市民会議では、子どもたちの健やかな成長に向けて、今後もよりよい社会環境づくりに努めてまいります。



村山地区青少年育成連絡協議会

総会報告

令和6年度連絡協議会総会が、5月23日(木)村山総合支庁本庁舎講堂で開催されました。

会議では、令和5年度事業・収支決算報告及び今年度役員承認に続き、今年度の事業計画について協議されました。



令和6年度連絡協議会総会の様子

◆一斉活動

・「有害図書類調査活動」
7月「青少年の非行・被害防止全国強調月間」、7～8月の県民運動重点期間のうちの一日を原則に実施
・「あいさつ・見守り運動」
地域(学校区)毎、11月「子ども・若者育成支援強調月間」中に一定期間を設定して実施

◆携帯電話インターネット接続役員提供事業者等への立入調査活動
事務局長が管内21店舗の調査を実施

◆有害図書等調査活動
事務局長が原則として月1回実施

◆青少年推進運動支援事業

管内市町において青少年健全育成運動に取り組んでいる団体や組織を顕彰

◆機関紙「青少年むらやま」の発行

10月上旬(第43号)、2月下旬(第44号)発行予定

◆「家庭の日」推進事業

「家庭の日」(毎月第3日曜日)運動の普及・啓発を推進

◆「いじめ・非行をなくそう」やまがた県民運動推進事業

・小・中学生対象の「いじめ防止標語」募集と優秀標語の選定、作者の表彰と啓発ポスターの作成・配布
・「いじめ・非行防止講演会」の実施
・「児童・生徒と地域の大人の対話会」の実施
・企業等への啓発活動

◆山形県青少年健全育成県民大会の開催

10月27日(日)「村山市民会館」

◆「大人が変われば子どもも変わる」県民運動の啓発活動

・啓発活動
各学校PTA総会時等に実施(運動への参加呼びかけとリーフレットの配付)

・啓発キャラバン
11月中「子ども・若者育成支援強調月間」を中心に実施

令和6年度山形県青少年育成主要事業

5月30日に開催された山形県青少年育成県民会議において、総合推進事業(県下全域における県民運動の推進)として二つの県民運動が決議されました。



1 「いじめ・非行をなくそう」やまがた県民運動

- (1) 市町村民会議等に対する支援
- (2) いじめ防止に向けた標語の募集、優秀標語や県民運動の広報・周知
- (3) 優秀標語の表彰
- (4) 缶バッジ等啓発用品、ポスター等を用いた普及啓発活動の推進
- (5) 小中学生、高校生、特別支援学校生を対象とする運動の展開
- (6) 県内各地域における児童、生徒と、地域の大人の対話会の開催
- (7) 高校生徒会によるスローガン・ポスター等の作成
- (8) 「いじめ・非行防止セミナー」の開催
- (9) インターネット利用に関する研修会の開催
- (10) 県内の民間企業・団体等と連携した啓発活動

2 「大人が変われば子どもも変わる」

県民運動等地域社会環境づくり

- ～地域の実情に応じて実施される社会環境づくりや以下の地域活動に対する助成～
- (1) 青少年育成地区協議会が実施する「大人が変われば子どもも変わる」県民運動等の地域実践活動
 - (2) 市町村民会議等との連絡会議や研修会等の実施による地域での県民運動推進基盤の強化活動
 - (3) 地区青少年育成連絡協議会が市町村民会議等と共同で行う活動

また、青少年育成に関する県民意識の醸成については、青少年県民大会の開催、少年の主張大会の開催、懇談会の開催、県民意識の啓発については、防犯ポスター・標語の募集、機関誌の発行、「家庭の日」の普及活動、ホームページを活用した情報発信機能の強化などが計画されています。

所感



村山市青少年育成推進員協議会
会長 藤田 浩司

地域の皆様と共に

現在、子どもたちが育つ環境はあらゆる面で変化し、またその生活環境も厳しさを増しています。家族形態の多様化、インターネットを利用した有害情報氾濫、生活環境の夜型化、児童虐待、いじめや不登校、薬物（危険ドラッグ、大麻等）など多くの問題が懸念されており、こうした問題の背景には、子どもたちを取り巻く社会が特に大きな影響を与えているのではないのでしょうか。

次代を担う青少年を育成するため各種団体、行政、教育関係団体の連携強化がより求められています。

令和6年度
村山地区青少年育成連絡協議会役員体制

- ◆三役
 - 会長 伊藤 康則（山形市）
 - 副会長 奥山 勝弘（寒河江市）
 - 副会長 笹原 茂隆（村山市）
- ◆推進員部会
 - 部会長 岡野 守昭（山形市）
 - 副部会長 後藤 吉美（尾花沢市）
 - 副部会長 後藤 洋一（寒河江市）
- ◆監事
 - 岩城 真也（山辺町）
 - 安達 晴美（西川町）
- ◆事務局（子ども家庭支援課）
 - 村山 朋子（課長）
 - 小松 健（課長補佐）
 - 半田 朋弥（子育て支援・若者活躍推進）
 - 伊東 優花（主事）
 - 阿部 勉（青少年専門員）
 - 白田 慶和（青少年専門員）

市町民会議会長・推進員部会会長

- | | |
|------|-------------|
| 山形市 | 伊藤 康則・岡野 守昭 |
| 上山市 | 木村 利明・山川 和夫 |
| 天童市 | 山本 信治・新関 知己 |
| 山辺町 | 松田 博之・村山 道雄 |
| 中山町 | 齋藤 圭一・多田 英生 |
| 寒河江市 | 奥山 勝弘・後藤 洋一 |
| 河北町 | 砂田 哲・齋藤 拓磨 |
| 西川町 | 伊藤 功・和賀 光 |
| 朝日町 | 遠藤 康男・鈴木 高光 |
| 大江町 | 村松 洋一・村山 茂暢 |
| 村山市 | 笹原 茂隆・藤田 浩司 |
| 東根市 | 元木 行彦・片桐 弘雅 |
| 尾花沢市 | 池田 正義・後藤 吉美 |
| 大石田町 | 五十嵐智志・織江 尚史 |
- よろしくお願ひします。

その中核である私たち青少年育成推進員の活動の重要性も年を追うごとに増してきている様に感じます。

私は自営業をしている関係から、地元商工会で理事を務めております。以前若手と呼ばれていた時、先輩の経営者に教えて頂いた言葉があります。「まちづくりはひとつづくり」まちを良くしようと思うなら同じ志をもった仲間を集める、年下の若い人たちに情熱を伝え共感してもらおう事。よりよいまちづくりを目指すならひとつづくりが成功のカギになる。

青少年を育む環境づくりを考えたいと同じ事が言えます。

行っていく事が育成事業の成功のカギになると捉えています。

村山市青少年育成推進員協議会でも、本連絡協議会の趣旨を受けて「大人が変われば子どもも変わる」「いじめ・非行をなくそう」県民運動を推進する為の事業を行っております。「いじめ防止標語」の募集はもとより、当会独自に「青少年健全育成標語」を募集し表彰、啓発活動を行っています。また、これまで学校、保護者、地域の方々と共に市内小学生を交えワークショップを行い、地区の魅力発掘、世代間交流をはかっております。今年も、県立村山産業高等学校の生徒と対話を開催し、高校生、その関係者と新たな関係づくりを行います。

「人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり」組織を支える人間関係をこれからも築いていこうと思います。

編集後記

お忙しい中寄稿いただきました山辺町松田田会長様、村山市藤田会長様に心よりお礼申し上げます。また、活動をご紹介いただいた四市町の担当者の皆様にご感謝申し上げます。

所感でも紹介されている、村山市青少年育成市民会議が村山警察署、村山産業高校の協力を得て開催した「さずなトーク2024」、テーマは、「SNS(ネット)」「薬物乱用防止について」の2つです。自分の考えを堂々と発表する高校生たち。「大人のひと話し合う機会はめったにないので、とても楽しかったです。自分たちの考えを真摯に受け止めてくれる方がいて、感謝したいです。」と、終了後に、感想を話してくれました。目を輝かせて力強く対話する姿に未来を感じたのは、私だけではなかつたはず。 (Y)